

インド：奇跡が止まらない？

ローマ、2012年6月26日(ZENIT.org)。何度も繰り返される説明のつかない病気の治癒が、インドの隅っこにある教会の急激な成長の主要な原因となっている、と当地の司教が語る。

インドの東北にあるアルナーチャル・プラデーシュ州の首都イタナガルの司教ジョン・トマス・カトルクディイル(Kattrukudiyil)師は、35年前には信者がほとんどゼロであった同教区が、今は総人口の40%が信者になるまで成長したが、その原因は病気の奇跡的な治癒が頻発することにあると説明する。

ドイツのケーニヒシュタインにある「苦しむ教会への援助」の本部を訪問した同司教は、自分の教区の現状をこう話す。「色々な場所で不思議な治癒のことを何度も耳にします。その内容は驚くべきものです」と。

司教区は中国、ブータン、ミャンマーと接している国境の州にある。司教は言う。「私は十分な神学的素養もあり、この種の出来事に対しては懐疑的な人間です。しかし、人々は自分たちが治癒の奇跡を受けていることを確信して疑わないのです」

そして、教会を迫害することに人生を費やしてきたが信者の女性と結婚するために洗礼を受けた男の話しを紹介した。「彼がカトリックになると、村の人々から全身不随の病人の上で祈るように頼まれました。彼は嫌でしたが仕方なく病人のところに行って祈りました。すると翌日、病人は床から起き上がり教会まで歩いて行ったというのです。男は非常に驚き、教会に行き始めて今では小教区でとても活動的に働いています」

司教は、その種の奇跡の話しをする当事者がしばしば疑いの目で見られたことを認める。「私もヨーロッパでこの種の話しをすると、『司教様、あなたは作り話をなさるのですか』と言われる」

しかし、この種の経験によって人々の霊的生活がいかに深まっているかを語る。「私の耳に入る奇跡の話は数が多いので、とても無視することができません。これは生まれたばかりの教会が経験していることで、ちょうど初代教会が受けた神の特別の助けのようなものです。病人のためにイエスに祈った結果、多くの治癒が起こっているという事実によって、多くの人が教会の門を叩くようになりました。その人たちは教会に属することになって、霊的な平安を獲得しています。自分たちが経験したことを見て、彼らは一緒になって病人の家に行き、そこで祈るとまた治癒が起こるといいます。長い間色々な病気に苦しんでいた人々が治っているのですが、これは初代教会の信者たちが経験したのと同じ経験です」

司教によると、アルナーチャル・プラデーシュ州ではこの35年で信者数はほとんどゼロから総人口の40%を占めるまで増加した。同州は1990年まで長い間法律によってキリスト教の宣教師の入国が厳しく制限されていた。その後隣のアッサム州にあるカトリックの学校に行く若者が増えて、状況が変化したようだ。それらの青年の中には、父母の同意を得て学校で洗礼を受け、その後故郷に帰って信仰を広めた。ある者は地方政府の高官になり、法や制度を改正するのに努めた。

多くの場所でカトリック信者はいわれのない暴力を受けていた。家を焼かれたり、家畜を殺されたり、仕事場や学校から追放されるという差別を受けていたが、状況は徐々に改善され、ここ20年では迫害や執拗な追求などは見られなくなった。

司教は言う。「今日では教会はただ仕方なく認可されているのではなく、教育や福祉の分野での仕事

によって人々の尊敬を受けています。・政治家たちはあらゆる機会に様々な分野での協力を求めてきます」

「苦しむ教会への援助」のおかげで一つの小神学校、修道院や小聖堂が建設、またカテキスタや先生たちの養成を通じての教会の成長を助けていることに対して、司教はこう謝意を述べた。「『苦しむ教会への援助』には中でも要理教育、信者の養成、聖堂の建設などを助けてもらっています。この組織は私たちの後ろに控えて私たちが必要とするすべてのことで助けようとしてくれていることをいつも感じています」と。

* * * * *



アルナーチャル・プラデーシュ州（左の地図中の赤い部分）

面積；83,743平方キロメートル

人口；109万人（2001年）

- * 「苦しむ教会への援助 (Aid to the Church in Need)」・1947年、ピオ12世教皇の励ましを受け、Werenfried van Straaten 神父によって始められた教皇庁の組織。目的は「この世界のどこであろうと、貧しい教会、あるいは迫害に苦しむ教会を司牧的に助ける」ことである。現在17の国に支部をもち、140の国でプロジェクトを展開している。

<http://www.acnuk.org/>